

競技要綱

(1) 競技種目

和装花嫁打掛姿(かつらの種類は自由・角隠しは不要)
基本的な花嫁着付け技術を基準とする。

(2) 競技時間

かつら下地・化粧・かつら・長襦袢の着付けまで …… 80分(監視員立会いの下、控室にて行う)
掛下の着付けからポーズ付けまで …… 25分(ステージにて行う)

(3) 競技方法

競技は監視委員の指示の下、控室にてかつら下地・化粧・かつら・こうがい・体型補正・長襦袢の着付けまでを80分間でを行い、次にステージにて掛下から打掛までの着付けと、草履を履かせ、正面立ち姿のポーズ付けまでを25分間で行う。

(4) 競技規定細目等 ※違反者は、減点もしくは失格となります

《競技規定細目》

- 化粧はその競技時間内に清拭から始める。
- モデルが口紅をひく、つけまつげを付ける、またはそれらの手直しをすること等は禁止。
- モデルが鉢巻布・ネットを一時押さえる、セルロイドを持つことは可。
- かつらにこうがい等を事前に付けておくことは禁止。
- 掛下・打掛の衿緩じは可。
- 帯の縫止めは禁止。
- 前もって帯に形付けをしたり、帯や着物に印を書いたり糸印を付けておくことは禁止。
- クリップの使用は衿止め・袖止め合わせて7本以内とする。
- ステージ上で衣裳・小物等を衣裳箱の外に出すのは、競技開始後とする。
- 草履は打掛を羽織らせてから履かせること。
- 掛下帯は平らな状態で屏風だたみにし準備しておく。
 - 掛下文庫の羽根を予めクリップで形付けておくことは禁止。
 - 掛下帯の幅出しをクリップで止めておくことは禁止。
 - 強い折り癖がついているものは認めない。
- 掛下文庫は作り帯(完成品及び半完成品)の使用は禁止。
- 首振り枕使用の場合は、控室での競技時間80分間の中で準備する。
- 掛下文庫の左右の羽根を合わせた時(打掛を羽織る前)、両羽根をクリップで止めることは可。
- 著しく完成された補正用品の使用は禁止。
 - 通常営業で使用する大きさの補正パッドを、その場で重ねてボディー修正していく。
 - 補正パッドを事前に重ね、縫い合わせてあるものは認めない。
 - キャミソール、胸巻きの使用は可。
 - 但し、キャミソールには綿花等を挟んだり、縫い付けていないこと。
 - 胸巻きの巻いた終わりを補正バンド(包帯止め型)で止めることは可。
 - ウエスト及びヒップの補正は分厚く作られたものは認めない。
 - ウエスト及びヒップの補正に単純な紐やテープを縫い付けることは可。
 - ウエストの補正とヒップの補正を一緒に作られたものは認めない。
 - ヒップの補正の仕上げに布一枚を巻くことは可。
 - 但し、布には綿花等を縫い付けていないこと。
 - ヒップの仕上げの布を巻いた終わりを、補正バンド(包帯止め型)で止めることは可。
 - 体型補正のためのタオル・綿花の使用は、事前に形付けられていなければ可。
- モデルはボディー修正の時、体に付けた補正パッドを一時押さえることは可。
- モデルは長襦袢・掛下の衿合わせをする時に、下前の衿を一時押さえることは可。
- 肩ベルトの使用は禁止。
- モデルは掛下・打掛を羽織る時、技術者に預けられた長襦袢・掛下の振りを一時持つことは可。

- 掛下帯の帯結びの時、掛下の振りをモデルの腕に掛けることは可。
- モデル自身が紐・帯締め・帯あげ等を結ぶことは認めない。
 - 但し、紐・帯締め・帯あげ等を一時持つことは可。
- ポーズ付けには打掛ベルト・袖止めの使用は可。
- ポーズ付けには、掛下の前の裾を整える為にクリップを使用することは禁止。
- ポーズ付けには袖板の使用は禁止。
- 着付けの仕上がりの修正に、ヘラ等の特殊な用具を用いることは認めない。

《選手の服装・モデル・使用する衣裳等》

- 選手の服装は色無地の着物(色は自由)とアイコー着を着用すること。
- モデルは各自同伴のこと。プロ・アマいずれも可。
- 競技に使用するかつら・衣裳及び下着類・着付け小物・メイク道具一式は各自持参のこと。

各自持参物

かつら、こうがい、かつら付けの必需品、打掛、掛下、掛下帯、長襦袢、6点セット(帯締め・帯あげ・抱え帯・懐剣・懐紙入れ・末広 それぞれ刺繍・飾りのついていないもの)、打掛ベルト、草履、衿止め・袖止め(合わせて7本以内)、着付け小物(紐類・伊達締又は伊達巻・帯板・帯枕・補正用品等)、化粧品、化粧用具、モデル用ガウン、衣裳敷き(100cm×150cm)、**卓上鏡(縦35cm×横25cm以内)**、他必需品一式。
※おしゃれ帯板、衿飾りの使用は禁止。
※競技で使用使用する衣裳箱は当日貸し出します。

《当日の行動及び禁止事項等》

- 当日の行動は監視委員及び誘導員の指示に従うこと。
- 競技中、選手同士又は観客と会話等をしてはならない。
- 競技中、選手とモデルは必要以上の会話等をしてはならない。
- 用具等の忘れ物があっても大会本部から貸し出しは一切しない。
- 他の選手に迷惑をかける言動をしたり、監視員の指示に従わない場合は退場を命じることがある。
- 競技終了後、選手はモデルに一切手を触れてはならない。
- 審査終了までモデル自身が手直しすることも一切認めない。
- 助手の使用は一切認めない。
- 大会当日、控室への出入は選手・モデル以外は一切認めない。(衣裳の搬出入時に1名のみ可。但し、直ちに退出すること。)
- 選手・モデルとも結果発表まで控室で待機すること。(記念撮影あり)
- 記念撮影は遠方の方を優先とし、写場にて選手自身が形付けをして頂きます。
- 表彰式の際は、モデル同伴で指示された場所に速やかに移動すること。

※貴重品の紛失・盗難につきましては、主催者側では責任を負いかねますので各自充分にご注意下さい。

- 《審査事項》 大会運営規則に基づき委嘱された審査員が、同規則に定められた「職務要綱」に基づき、審査業務を行う。
- 《監視事項》 大会運営規則に基づき委嘱された監視員が、同規則に定められた「職務要綱」に基づき、監視業務を行う。
- 《採点精算》 大会運営規則に定められた「職務要綱」に記載する。
- 《順位決定》 順位の決定は審査員の採点の合計点に基づき、実施する。
- 《表彰》 入賞者の数については、出場選手の数に応じて大会実行委員長が決定する。
- 《コロナ感染防止についての注意事項》 別紙参照